

氏名 松井裕輔  
授与した学位 博士  
専攻分野の名称 医学  
学位授与番号 博甲第 4375 号  
学位授与の日付 平成23年3月25日  
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻  
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Role of Computed Tomography Fluoroscopy-Guided Cutting Needle Biopsy of Lung Lesions After Transbronchial Examination Resulting in Negative Diagnosis  
(気管支鏡下生検にて診断に至らなかった肺病変に対するCT透視下肺生検の役割)

論文審査委員 教授 吉野 正 教授 三好新一郎 准教授 木浦 勝行

#### 学位論文内容の要旨

CTガイド下肺生検は、臨床的に悪性が疑われながらも気管支鏡下生検にて確定診断に至らなかった病変に対してしばしば施行される。この研究の目的は気管支鏡下生検で診断できなかった肺病変に対する20G coaxial生検針を用いたCT透視下生検の結果を解析し、その有用性を検討することである。方法：当院にて2000年4月から2009年10月までに行われた、気管支鏡下生検で診断がつかなかった351肺病変(325症例、341手技)に対する肺生検の結果を検討した。まず、生検の感度、特異度、陽性適中率、陰性適中率、正診率を算出した。次に、誤診のリスクファクターを解析した。結果：生検結果は真陽性が262例、真陰性が70例、偽陽性が0例、偽陰性が17例、診断不能が2例であり、感度93%、特異度100%、陽性適中率100%、陰性適中率80%、正診率94%という成績であった。有意な誤診のリスクファクターは認められなかった。結論：気管支鏡下生検で診断できなかった肺病変に対するCT透視下生検の診断能は良好である。

#### 論文審査結果の要旨

気管支鏡下生検にて確定診断に至らなかった肺病変に対してCT透視下生検を施行し、その有用性を検討した研究である。2000年から2009年までに気管支鏡下生検にて診断がつかなかった351肺病変(325症例、341手技)に対するCTガイド下肺生検結果を検討した。その結果、真陽性が262例、真陰性が70例、偽陽性0例、偽陰性17例、診断不能例2例であった。感度93%、特異度100%、陽性的中率100%、陰性的中率80%、正診率94%であった。有為な誤診のリスクファクターはなく、気管支鏡下生検で診断できなかった肺病変に対してはCT透視下生検の診断能は良好で、積極的に施行すべきと考えられた。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、肺癌検査に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。